

令和5年度下野市行政評価市民評価 【委員個別評価集計表】

評価対象事業一覧

No.	部 名	所管課名	事 務 事 業 名
1	総合政策部	総合政策課	ふるさと納税推進事業
2	市民生活部	安全安心課	市内公共交通運行事業
3	健康福祉部	社会福祉課	ゆうゆう館改修事業
4		健康増進課	保健衛生総務事務費
5	産業振興部	農政課	地域ブランド支援事業
6		商工観光課	商工業振興事業
7	建設水道部	建設課	スマートIC整備事業
8		下水道課	公共下水道事業
9	教育委員会 事務局	教育総務課	奨学金貸付事業
10		文化財課	東の飛鳥プロジェクト推進事業

令和5年度 下野市行政評価市民評価シート【集計表】

事務事業名	ふるさと納税推進事業	所管部課	総合政策部	総合政策課
総合評価	継続実施			

	内部評価	委員評価	
必要性	A	A	4
		B	2
		C	1
有効性	B	A	1
		B	4
		C	2
効率性	A	A	2
		B	3
		C	2

		委員評価	
内部評価について	妥当である	2	
	おおむね妥当である	2	
	やや妥当ではない	行政評価が高すぎるため	1
		行政評価が低すぎるため	0
	妥当ではない	行政評価が高すぎるため	2
		行政評価が低すぎるため	0

評価意見	【妥当である】
	<p>➢新たな返礼品など取り入れPR活動を積極的に行い寄付額の増加に繋げていただきたい。</p> <p>➢大変苦しい中かと思いますが、尽力いただきますようお願いいたします。</p>
	【おおむね妥当である】
	<p>➢本事業をめぐるルールの厳格化に適切に対応しているといえる。総合政策課へ所管替えも妥当である。その意味で現状での赤字はやむを得ない側面もある。しかし一方で、本事業が返礼品目的の寄付や過度な自治体間競争といったように、本来の目的から逸脱した状況が顕著になっている。行政は本事業が交付税措置されるから是と当然視する考えを見直し、そもそも本事業が本当に「不可欠な財源確保方策」なのか、市民を巻き込んだ形での問題提起をしてほしい。</p> <p>➢市のPRと返礼品の充実を図り、寄付額の増を望む。</p>
	【やや妥当ではない(行政評価が高すぎるため)】
<p>➢下野市は今後高齢化の進行及び人口減少に伴い税収が減少していくことが予想される中で、市民への適性な行政サービスを行っていくために、財源の確保が重要である。その中でふるさと納税は自らの努力で市の財源を獲得する重要な手段であるので、寄付額アップにむけた取り組みを強化すべきである。今回の施策内容では大きな施策変更がなく、寄付額のアップ目標額が不十分であるばかりでなく、獲得目標の寄付額と比較して、費用率が高すぎるように感じる。ぜひ抜本的にやり方を変更し、他市に逃げる税金以上の寄付額が獲得できるよう、目標を高く設定して取り組んで欲しい。</p>	
【妥当ではない(行政評価が高すぎるため)】	
<p>➢現行制度は地域への応援という趣旨から逸脱して返礼品競争になっており、一部の自治体に寄付が集中し、多くの自治体では公共サービスの財源たる住民税の漏出に悩んでいる。国に対し、制度の抜本的な見直しを求めるべきである。</p> <p>一方、市税の減収による影響は看過・座視できず、魅力的な返礼品の発掘・創出にも注力すべき。</p> <p>➢2008年発足時から危ぶまれていた制度の歪みが現実味を帯び、市町村間の過当競争を生み、今や国から、返礼品は地場産に限る、調達費は寄付額の3割以下、経費総額は5割以下との基準枠が示され、かつ、住民税と所得税の控除額及び増加する経費を加えて、収支が合わない分は国からの交付税で穴埋めされるという本末転倒な事態が生じ、育んでくれた故郷への純粋なお礼という返礼品無しの寄付本来の姿にすることが望まれる。</p>	

令和5年度 下野市行政評価市民評価シート【集計表】

事務事業名	市内公共交通運行事業	所管部課	市民生活部	安全安心課
総合評価	継続実施			

	内部評価	委員評価	
必要性	A	A	8
		B	1
		C	0
有効性	A	A	6
		B	3
		C	0
効率性	A	A	5
		B	4
		C	0

		委員評価	
内部評価について	妥当である	3	
	おおむね妥当である	4	
	やや妥当ではない	行政評価が高すぎるため	2
		行政評価が低すぎるため	0
	妥当ではない	行政評価が高すぎるため	0
		行政評価が低すぎるため	0

評価意見	【妥当である】
	<p>➢とくに高齢者などの交通弱者に対し、重要な外出支援の機能を果たしており、事業実施の微修正は必要であるものの、今後とも安定的な運行を継続していくことが大切である。上三川町・壬生町との連携も継続してほしい。</p> <p>町外や県外からの利用者登録を受け付けている点は特筆すべきではないか。たとえ利用者間で面識がないとしても、車内での利用者同士が移動の間、会話・対話しやすい雰囲気づくりを行政が主導してもいいのではないか。</p>
	<p>➢これから、急激に進展する高齢化に向け、日常における公共交通による移動手段として重要な事業である。また、運転免許証自主返納が増えていく傾向にありますので、予算的な問題もあると思いますが、高齢者や障がい者等の日常生活の不便を解消できるようお願いしたい。</p>
	<p>➢住みやすいまちづくり、高齢化社会への対応などにより本事業の必要性は高いものと思料される。市と運行管理事業者との連携強化により、より良いサービスの拡充を望む。</p>
	【おおむね妥当である】
	<p>➢下野市は今後高齢化が進むと予想されますので、免許返納者も多くなってくるかと思えます。市民の方の中に買い物難民や通院難民がでないよう引き続き整備をよろしく願いいたします。</p>
<p>➢高齢者が免許証を迷わず返納できるように、公共交通の利便性が向上すれば良いと思えますので、他の市町とのさらなる連携をご検討下さい。また、買い物などをした場合に乗り降りを補助できる体制も必要かと思えます。</p>	
<p>➢運転免許証の返納などでこれから益々必要性が高くなると思われ、事業開始当初と比較して進展していることが理解できた。今後も細やかな配慮をした上で、路線や利用用途の拡大等の事業の拡大を期待する。また、他市町との連携強化について、さらなる検討をお願いしたい。</p>	
【やや妥当ではない(行政評価が高すぎるため)】	
<p>➢プロポーザル業務に10,000千円の予算を上乗せるのは過剰である。</p> <p>➢少子高齢化の大波をもろに受け、交通弱者(1人暮らし又は運転免許証返上の高齢者、病者、障がいをお持ちの方)にとって、通院、買い物、公共施設の利用、役所への諸手続きなどにはデマンドバスは有効に働くものの、その隙間を埋めるため、市内のある地区では、利用勝手が良いようにして住民が会を作って車を出し助け合う自主運行の新しい仕組みで対応(県内他町でも実例有り)していると仄聞し、AIなどで運行の改善が重ねられても、昨今ライドシェアも課題になり、2024問題として運転手不足の波が目前に迫り、いつまでも事業者委託に頼れる保証はなく、市内のある地区の自立的な取り組みにみられるような新しい発想による対応が望まれる。</p>	

令和5年度 下野市行政評価市民評価シート【集計表】

事務事業名	ゆうゆう館改修事業	所管部課	健康福祉部	社会福祉課
総合評価	見直し実施			

	内部評価	委員評価	
必要性	B	A	3
		B	4
		C	0
有効性	B	A	3
		B	4
		C	0
効率性	B	A	3
		B	4
		C	0

		委員評価	
内部評価について	妥当である	1	
	おおむね妥当である	6	
	やや妥当ではない	行政評価が高すぎるため	0
		行政評価が低すぎるため	0
	妥当ではない	行政評価が高すぎるため	0
		行政評価が低すぎるため	0

評価意見	【妥当である】
	>費用がかかる話ですが、可能な限り早急に改修・修繕を進めてください。利用料を上げてでも改修・修繕が必要です。
	【おおむね妥当である】
	>指定管理者と行政との情報共有のあり方を見直す必要がある。とくに利用者からの要望に対して、修繕など具体的な対応の有無とは別に、指定管理者・行政ともに利用者に対して十分な説明責任を果たしていないように見受けられる。 両者の書面上の「リスク分担」と実際状況とが一致しているか確認する必要もある。細部に及ぶ「リスク分担」について、両者が認識を共有する必要がある。
	>健康、福祉の向上を図る施設として施設内も整備されており、更に、避難所や災害ボランティアセンターの活動拠点となっています。過去に近隣の市が被災された際には、温浴施設の利用開放し被災された方の支援の実績もあります。 また、平常時は、娯楽施設の他、保健、福祉としての活用されておりますので財源的な問題もありますが市民が安心して利用できる施設として計画的に修繕を行っていただきたい。
	>老朽化に伴う改修は必須であるので異論はないが、箱物をつくる時には耐用年数に応じて改修が必要になるので、それは計画的に予算を取ってやってもらえばよい(議論することではない) 但し、今回の議論の中では、日々の修繕費も回っていないような状況であるので、もし委託会社があるなら、日常の適性なランニングコストも予算化し、市民の利用において不利益の生じないようにしていただけたらと思います。今回のような定期メンテに必要な予算の議論ではなく、3館の位置づけ及び今後の活用の方向について議論できればよかったですと思います。 >経年劣化への対応は当然である。当該施設の管理は指定管理者として下野市社会福祉協議会が当たっているが、仄聞するところでは、きめ細やかな施設管理が一部欠落して居り、利用者の要望や提案を斟酌しつつ、行政、下野市社会福祉協議会ともに、より良い運営に意を用いるべき。 >災害時の避難所に指定されている施設であるため、再度、診断調査をしてみてもどうか。 >小学校の統廃合も進み、人口減が避けられない状況では、老朽化が進み維持管理にほころびが出てきている合併以前の類似3施設について、限られた予算で維持管理していく必要性和限界を直視し、ゆうゆう館が本市の保健センター及び福祉センターとして保健福祉の中核機能をになっていることを踏まえ、維持修繕に手が回らなくて、3施設共倒れのおそれを避け、他の施設を困難であっても軽重をつけて対応(他の機能に変換または廃止)することが望まれる。

令和5年度 下野市行政評価市民評価シート【集計表】

事務事業名	保健衛生総務事務費	所管部課	健康福祉部	健康増進課
総合評価	継続実施			

	内部評価	委員評価	
必要性	A	A	7
		B	0
		C	0
有効性	A	A	4
		B	2
		C	1
効率性	B	A	3
		B	3
		C	1

		委員評価	
内部評価について	妥当である	4	
	おおむね妥当である	3	
	やや妥当ではない	行政評価が高すぎるため	0
		行政評価が低すぎるため	0
	妥当ではない	行政評価が高すぎるため	0
		行政評価が低すぎるため	0

評価意見	【妥当である】
	<p>> とくに正規職員の保健師の職務について、その範囲が年々拡大し複雑化しているように思われる。市の「保健事業の細分化」に対応するための、人材のネットワーク対応や、保健師個々の力を発揮できるような個人単位での役割分担の見直しが必要ではないか。果たして現状の仕事内容について保健師自身が納得しているのだろうか。地域の関係者や人材をさらに有効に活用する手立てはないのか。</p> <p>> 今後とも引き続き事業の継続をお願いします。</p> <p>> 提出資料は、図らずも本市の保健衛生事業の実施体制が抱える多くの課題を示しており、年々増加する保健衛生事業を担当する専門職種の保健師数が前年の12名から10名に減じ、しかも1年更新の非正規の会計年度任用職員(保健師及び看護師各1名)を充てなければ業務遂行が困難との悲痛な状況を抱えている上、母子、高齢者、在宅のがん患者等に対して高い専門性をもって継続的に寄り添い支える側が多忙で不安定雇用状態では十分に職責を果たせるか危ぶまれ、そのうえ、担当課全体の職員33名中42%が会計年度任用職員で担われる本市の保健衛生行政とその担当職員の健康(心と体)の危うさも危惧され、保健衛生行政の充実と「働き方改革」の観点からも不安定雇用の実施体制の早急な改善が望まれる。</p>
	【おおむね妥当である】
	<p>> 業務内容等の改善や課題を踏まえ、職員体制を充実させ健康診断等の業務効率を上げていただきたい。</p> <p>> 保健衛生事業は市民にとって非常に重要な事業であるので、他市の行政サービスと比較して下野市は同等以上のサービスが提供できているのかをしっかりと調査し、もし他市よりも劣っているならば積極的な予算計上も考えてほしいと思います。</p>

令和5年度 下野市行政評価市民評価シート【集計表】

事務事業名	地域ブランド支援事業	所管部課	産業振興部	農政課
総合評価	継続実施			

	内部評価	委員評価	
必要性	A	A	6
		B	1
		C	0
有効性	B	A	1
		B	6
		C	0
効率性	B	A	2
		B	4
		C	1

		委員評価	
内部評価について	妥当である	2	
	おおむね妥当である	4	
	やや妥当ではない	行政評価が高すぎるため	1
		行政評価が低すぎるため	0
	妥当ではない	行政評価が高すぎるため	0
		行政評価が低すぎるため	0

評価意見	【妥当である】
	<p>➢農産物は基礎的農産物(ジャガイモ、タマネギ、ニンジン等)と高付加価値農産物(トマト、ブランド米、リンゴ、ブドウ、イチゴ等)とに2分化できると思われる。本市の農業は大消費地と近接し、高付加価値農産物に注力すべきと思うが、干瓢たるやその範疇に入るか悩ましいところではあるが、日本一の生産地であり、名誉ある義務として干瓢の振興を図るべきである。</p> <p>➢ふるさと納税事業にも関わるので、引き続きご尽力ください。また、給食を活用した子どもたちへの普及も素晴らしい取り組みですので、ぜひ継続してください。</p>
	【おおむね妥当である】
	<p>➢事業名を「地域農産物ブランド支援事業」に変更してはどうか。 かんぴょう条例やかんぴょう祭りは、PRの絶好の機会なので、今後とも中身の充実を継続してほしい。 子ども世代を対象とした、教育現場での催しを行政は地道に支援してほしい。 かんぴょうを市における唯一・単一の地域農産物ブランドに絞った方が効果は大きいのではないかと。さらに、秀逸に出来上がっている「かんぴょう簡単レシピ」(2017年)冊子を2年に1度若干修正して2024-25年版とし、市内外の人々への周知を最重点のPR戦略に位置付けたらどうか。人物埴輪など歴史遺産との関係づけも非常に効果的だと考える。</p> <p>➢地域の特性を活かした農産物ブランド化を引き続き進めていくことで、農業離れ対策や市のPRに反映される事業と考えます。かんぴょうについては、引き続き現状維持ができるようなイベント等を開催しPR活動に努めていただきたい。</p> <p>➢下野ブランドと混同しやすいことから、事業名を変更してはどうか。</p> <p>➢本市の地域ブランド特産品として現在本市が全生産量の約60%を占める生産量日本一のかんぴょうが代表格であり、生産量日本一ということ自体本市に大きなPR効果をもたらしているにも関わらず、現状は安い中国産に押され、生産農家数、耕地面積、生産量のいずれも大幅に減少し、このままでは先細り状態で絶滅危惧種のおそれもあり、移住政策、東の飛鳥プロジェクト、各種イベント等の現存する他の政策と関連付けて底上げを図り、例えば学校給食用の食材、生産農家の後継者育成(1ターン移住も含め)などへの助成策を講じ、さらに本県の代表的特産品でもあることから、県とも協議して手を借り、思い切った手を打つことが望まれる。</p>
	【やや妥当ではない(行政評価が高すぎるため)】
<p>➢今回のご提案は地域ブランド支援というよりも、下野市の特産品の生産農家に対する経済支援にしかになっていないように思います。かんぴょうが生産量No.1ならかんぴょうの良さ、特に他の農産物と比較した場合の栄養価の高さをもっと強くアピールし、付加価値の高い健康食品として需要を喚起するような施策が必要と感じます。 ぜひかんぴょうの栄養価の高さ、ヘルシーさを積極訴求し、幅広い料理に活用できる食材としてブランド化を推進して欲しいと思います。</p>	

令和5年度 下野市行政評価市民評価シート【集計表】

事務事業名	商工業振興事業	所管部課	産業振興部	商工観光課
総合評価	継続実施			

	内部評価	委員評価	
必要性	A	A	5
		B	2
		C	0
有効性	A	A	3
		B	4
		C	0
効率性	A	A	4
		B	2
		C	0

		委員評価	
内部評価について	妥当である	3	
	おおむね妥当である	2	
	やや妥当ではない	行政評価が高すぎるため	2
		行政評価が低すぎるため	0
	妥当ではない	行政評価が高すぎるため	0
		行政評価が低すぎるため	0

評価意見	【妥当である】
	<p>➢資本主義は地域社会や中小商店が活力のある欧米型の資本主義と、cut throat competition(苛烈や競争)と言われる徹底した競争を是とする米国型資本主義に二分化でき、日本の方向性としては、欧米型を目指すべきというのが私の持論ではあるが、現状では米国型へと向かって居り、ある日気が付けばロードサイド型の大型店ばかりで、周囲を見回すと個人商店は全滅というのが日本の将来像であろう。高齢化の進展に伴い買い物難民をこれ以上増やさない意味でも、きめ細やかな中小零細企業対策が引き続き必要である。</p> <p>➢新たな工場や工業団地が出来上がることで、雇用が生まれ、人が集まります。人が集まれば宅地が必要となるので、市街化調整区域の規制緩和と併せて検討しつつ、地域の活性化に繋がれば良いと思います。</p>
	【おおむね妥当である】
	<p>➢この事業は、行政や商工会議所、企業等との連携が必要であると感じました。また、地域住民など意見や街並みのイメージを作りが大切であると思います。</p> <p>➢下野市の商工業の振興においては、個別の経済支援もさることながら、グランドデザインが必要かと思えます。どのエリアを今後どんな役割にして生まれ変わらせていくか、商業施設を誘致する地域、観光拠点として整備する地域、工場誘致をして雇用を創出する地域等々、どう町が生まれ変わるかの議論が先に必要と感じました。</p>
	【やや妥当ではない(行政評価が高すぎるため)】
	<p>➢本事業を地道に継続する意義はある。用途地域の制約も理解できる。しかし一方で、空き店舗対策の手詰まり感は明らかである。</p> <p>すぐに効果は見込めなくても10年あるいはそれ以上先を見越した大胆な発想が必要だと思う。「灯台下暗し」となっている市内の隠れた地域資源に着目してはどうか。たとえば戦前・戦後の車両基地として、「小金井駅」の機能が卓越している点などが挙げられる。子ども世代も含めた多世代に、歴史も含めわかりやすく説明する資料を行政が作成し、まずは市民への理解浸透を図る。同時に市外へもPRする。効果の即効性はなくても、将来的に市の歴史遺産に匹敵する地域資源になり得ると思われる。</p> <p>➢工場誘致は促進する反面、少子高齢化と車社会の大波をまともに受け、街中には人が少なくなり、空き店舗の増加を止めようもなく、リニューアルして再活用を図っても、特殊な例を除いては、残念ながら広い駐車場と多種多様な商品を備えた大型店舗には太刀打ちできないという現実を直視して対応することが望まれる。</p>

令和5年度 下野市行政評価市民評価シート【集計表】

事務事業名	スマートIC整備事業	所管部課	建設水道部	建設課
総合評価	継続実施			

	内部評価	委員評価	
必要性	A	A	7
		B	2
		C	0
有効性	A	A	7
		B	2
		C	0
効率性	B	A	3
		B	6
		C	0

		委員評価	
内部評価について	妥当である	2	
	おおむね妥当である	6	
	やや妥当ではない	行政評価が高すぎるため	1
		行政評価が低すぎるため	0
	妥当ではない	行政評価が高すぎるため	0
		行政評価が低すぎるため	0

評価意見	【妥当である】
	<p>➢スマートIC完成後の周辺地の活用方法について、プラン策定を早急に進めるべきであると思う。</p> <p>➢工業団地を抱え、物流に寄与する上、企業誘致の好材料にもなり、市勢発展のためにも早期整備が望まれる。</p>
	【おおむね妥当である】
	<p>➢・整備対象のスマートICが、豪雨災害などの際に救援物資等の輸送などあたって優れている点を、市民に対してもっとPRしてほしい。 開設後、市が負担する道路メンテナンスなどに掛かる予測コストを、今のうちから把握しておくことが必要ではないか。</p> <p>➢せっかく下野市内にスマートICができるので、まちが発展できるよう総合的なプランを立てて、周辺道路の整備等、進めて頂ければと思います。 会議の中でも発言のあったコストコのような大型商業施設の誘致、工業施設や教育、研究機関の誘致等、人が集まり、発展する絵をぜひ描いて進めていただければと思います。</p> <p>➢便利ではあるが、壬生町、上三川町にICがあるため、短い経路にICが集中することになる。また、周辺の開発も必要だが、現在は別の場所で工業団地を整備しているため、IC周辺の開発はもう少し時間をおいてから着手しても良いのではないかと思います。</p> <p>➢スマートICが完成すれば利便性が向上するが、ぜひ、市に還元されるような計画を検討されたい。コストコ出店以来、その周辺の商業施設が以前と比べ物にならないほどに賑わっている。ICができればコストコ利用客の利便性も向上することと思われるが、本市としては通過されてしまうだけでは残念に思う。</p>
	【やや妥当ではない(行政評価が高すぎるため)】
	<p>➢今後は、市の経済効果等を含めた新たな事業計画を進めていただきたい。</p>

令和5年度 下野市行政評価市民評価シート【集計表】

事務事業名	公共下水道事業	所管部課	建設水道部	下水道課
総合評価	継続実施			

	内部評価	委員評価	
必要性	A	A	9
		B	0
		C	0
有効性	A	A	7
		B	2
		C	0
効率性	B	A	5
		B	4
		C	0

		委員評価	
内部評価について	妥当である	2	
	おおむね妥当である	7	
	やや妥当ではない	行政評価が高すぎるため	0
		行政評価が低すぎるため	0
	妥当ではない	行政評価が高すぎるため	0
		行政評価が低すぎるため	0

評価意見	【妥当である】
	<p>➢安全な水道水の安定供給と適切な汚水処理について、引き続き、安心して生活できるよう下水道事業の継続をお願いします。</p> <p>更に、施設の改修や老朽管の更新等に加え、自然災害などの予期せぬ被害にも備える必要があることから計画的に事業進めていただきたい。</p> <p>➢流域治水の取り組みについて市民に幅広くPRし、各家庭における対策を進めるべきである。</p>
	【おおむね妥当である】
	<p>➢・砂利や花壇に雨がしみ込むようにする、雨桶からの水をバケツやタンクに貯める、庭に水がたまる場所をつくる、大雨の際風呂の水を流さない、といったことに取り組み、それを継続する市民を増やすために、行政には下野市ならではの独自の工夫が必要ではないか(たとえば、他事業とリンク・コラボさせて楽しく取り組むことができるようにするなど)。</p> <p>➢治水の観点からぜひ計画的に進めてください。また市民個人でできる排水樹や雨水貯留タンクも啓蒙がなければ進みません。ぜひ補助金と合わせて、市民への啓発をよろしくお願いいたします。</p> <p>➢近年の気候変動により災害がどんどん大規模化している。災害対策が進んではいませんが、まだまだ心配であることから、住民が個人で取り組める流域利水をもっと広めて、田んぼダムなどと一緒に、一丸となって取り組むべきだと思う。</p> <p>➢耐震化はぜひ進めていただきたい。災害等により設備が使用できなくなると、社会機能のマヒを招きかねない。</p> <p>➢特別環境保全公共下水道の受益者負担金は地域による差があり合理性に欠ける。(石橋北部・南部負担金365千円、国分寺545千円)(最終的に各地区の負担金は農業集落排水事業負担金×0.9の金額になっている)3町が合併し下野市が誕生してから十数年が経過しているにも拘わらず、地域間の差異を放置したままでは不作為の罪ともいえることであり、早急に是正すべきである。</p> <p>➢衛生的で住みよい都市には、汚水と雨水の処理が必要で、76.8%の下水道整備率は低い方ではなく、気になるのは雨水対策で、「水害対策として振った雨を河川に排水するための雨水管の整備を行っている」との対策が取られており、これは豪雨の際、雨水を集め増水し洪水を招く(特に下流域)おそれがあることや水道水が表流水(河川水)が水利権等で殆ど利用できず(例外あり)、地下水に頼らざるを得ず、本市も36の専用井戸(うち濁りや水量不足で3井戸休止)に頼っている状況では、地下水の枯渇(地下水くみ上げによる地盤沈下地区が本県に数例有り)を防ぐためにも、コンクリート化した都市部の一部を除き、むしろ地下浸透を図り、水源の涵養を視野に置くことが望まれる。</p>

令和5年度 下野市行政評価市民評価シート【集計表】

事務事業名	奨学金貸付事業	所管部課	教育委員会	教育総務課
総合評価	継続実施			

	内部評価	委員評価	
必要性	A	A	9
		B	0
		C	0
有効性	B	A	5
		B	4
		C	0
効率性	A	A	6
		B	3
		C	0

		委員評価	
内部評価について	妥当である	1	
	おおむね妥当である	8	
	やや妥当ではない	行政評価が高すぎるため	0
		行政評価が低すぎるため	0
	妥当ではない	行政評価が高すぎるため	0
		行政評価が低すぎるため	0

評価意見	【妥当である】
	>家庭の事情などにより経済的に余裕がなく、進学する学費の貸与であるため、市民への相談窓口等のPRに努めていただき安心して進学できる環境整備をお願いします。
	【おおむね妥当である】
	<ul style="list-style-type: none"> >・本事業が15年間継続している点でも評価できる。 ・募集要項の内容に課題が見当たらない点も評価できる。 ・行政には本市への定住だけでなく、奨学生の地元での「活躍」も見据えた発想を打ち出してほしい。
	>会議中에서도質問させていただきましたが、本制度が育英奨学金だけでは足りない人や育英奨学金が受けられない人にとっての助け舟になるような制設計をしていただければより有効な施策になるかと思えます。ぜひご検討ください。
>人材育成の観点からも教育機会の充実は意義のあることで、事業継続の必要性は高い。償還金の一部免除制度もあることから、返納の負担軽減もできる。今後、さらに必要性が増してくる事業であると思われる。	
>教育を受けることは本人のみならず地域社会にとっても大切なことであり、また、受ける権利もあると思う。是非、必要な人が奨学金を受け取れるようにして頂きたい。	
>貧困の再生産を防ぐには教育が肝要とされ、経済的に恵まれない進学意欲のある若者に教育の機会を与える奨学金はまさに慈雨であり、一層の奨学金の貸付枠の増大と貸付条件の緩和が望まれる。現行の施策の中で気になるのは、定住促進のために免除を認めるのは制度本来の趣旨から遠く、さらに校長先生からの推薦状は双方に心理的負担を負わせ応募をためらわせる要因にもなりかねず、これらの廃止が望まれる。	

令和5年度 下野市行政評価市民評価シート【集計表】

事務事業名	東の飛鳥プロジェクト推進事業	所管部課	教育委員会	文化財課
総合評価	継続実施			

	内部評価	委員評価	
必要性	A	A	9
		B	0
		C	0
有効性	A	A	8
		B	1
		C	0
効率性	A	A	8
		B	1
		C	0

		委員評価	
内部評価について	妥当である	7	
	おおむね妥当である	2	
	やや妥当ではない	行政評価が高すぎるため	0
		行政評価が低すぎるため	0
	妥当ではない	行政評価が高すぎるため	0
		行政評価が低すぎるため	0

評価意見	【妥当である】
	<p> >・漫画「下毛野古麻呂」について、ISBNを取得し、全国で刊行できるような方途を検討してほしい。 ・現状の「れきぶんマップ」の大きさについて、上記漫画「下毛野古麻呂」と同じ大きさとして、巻頭か巻末に入れ込んでどうか。学習教材だけでなく、書籍としての価値が飛躍的に上がるように思われる。デジタル情報の保有と同時に、モノとしての書籍を求める層は意外にも多世代に及んでおり、多くの読者が買い求めるのではないか。さらに、来訪者の大幅増につながるのではないか。 </p> <p> >下野市の歴史文化を活かし、引き続き事業推進に努め市の活性化に繋げていただきたい。 </p> <p> >歴史・文化を大切にし、国や県の補助金を有効に活用して下野市のPRに取り組んでいることが伺える。発掘した時に、場所・説明に参加したことがあります。夢のある話を聞けました。こういった事業は継続してくべきと思います。また、学校教育の一環としてかんぴょう剥き体験をしているので、農政課と連携して何か取り組みができればと思います。 </p> <p> >学識と工夫で事業を推進できていると感じた。 </p> <p> >飛鳥時代に西の飛鳥である奈良に対峙する東の飛鳥を担った本市に遺る当時の文化財等を最大限に生かし、10,000千円前後の予算に加え、現行の使える補助金制度をフル活用し、漫画出版や最新のPR技術を駆使するのにとどまらず、歴史的にも古く生産量の日本一を誇る本市のかんぴょうにも一役買ってもらうなど徹底的なPR事業を展開し、教育や観光資源としての活用の道を開き、その発想や手法は他行政の範ともなり得、本市の行政水準アップにもつながり、さらにいえば、市民に誇りを持たせ、本市の価値を高めることにもつながり、本事業の一層の発展が望まれる。 </p>
	【おおむね妥当である】
	<p> >東の飛鳥プロジェクトは市民の誇りになるとともに、町おこしにとって非常に重要な事業だと思います。これまでのような冊子では啓蒙できる範囲(リーチ)が限られますので、全国の方に東の飛鳥の魅力を理解し、下野市まで足を運んでもらえるよう、より一層SNSの活用を考えていただければと思います。YOUTUBEだけでなく、インスタ等、若い方に影響力のあるプラットフォームで積極的に話題になるよう、インスタ映えやいかにバズらせるかといった視点で考えていただければ助かります。 (SNSによるコンテンツマーケティング) </p>